

② AIを活用した地域交通網の最適化運用の研究

NTTドコモとの連携協定により、ICTを活用した社会基盤づくりの一つとして、大胡・宮城・粕川地区のふるさとバスや富士見地区のるんるんバス、城南地区の地域内交通に、AI配車システムの活用する実証実験を順次実施しています。ふるさとバスは3月末まで、るんるんバスは1月から3月末まで、城南地区地域内交通は2月末まで実験します。

AIは人工知能のこと。この実験ではAIが最適な配車ルートや時刻を計算することで、待ち時間の短縮や運行の効率化を図ります。また、アプリを使うことで予約や目的地検索が簡単にできるようになります。実験をとおして地域交通網の最適な運用を研究し、利用者の増加を目指していきます。なお、アプリによる配車予約は、城南地区を除く既存デマンドバス運行エリアのみです。



デマンドバスをより使いやすくするため、従来の電話予約に加え配車アプリを取り入れました。スマートフォンなどから簡単に予約ができ、運行状況や予定時間が確認できるため、利用者も安心して使えます。この機会に多くの人にデマンドバスと配車アプリを活用してもらいたいです。 交通政策課 関口 晴久



利用のイメージ

①アプリから利用を予約



②AIを使い、効率的なルート割り出します



③割り出したルートに従い、デマンドバスで利用者を目的地へ



③ 城南地区地域内交通実証実験

城南地区では、地域が主体となり、平成23年度から地域内の移動手段確保に向けてこれまでさまざまな協議を重ねてきました。協議結果をより具体化するため、城南地区に住んでいる人を対象にデマンドタクシーの実証実験を2月末まで実施しています。12月13日には出発式を開催。地域住民の期待は大きく、多くの人が参加しました。今後、バス路線の再編と併せ、市内の公共交通不便地域の解消を目指します。

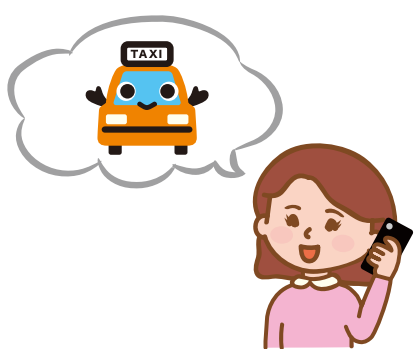
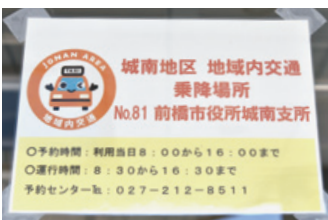


Interview

民生委員時代、交通手段がなく買い物や通院ができない人たちの送迎を支援していました。でも私がいつまでもできることではなく、この問題は地域で取り組んでいくことだと気がきました。そこで、平成23年度に地域づくり協議会が発足したのをきっかけに、交通弱者の支援を検討してきました。市や県、タクシー会社が協力してくれたこと、さらには協議会メンバーだけでなく自治会や各団体など地域の皆さんと一緒に取り組んでくれたことで実証実験まで至ることができました。今後、より利便性の高いサービスにしていこうと、地域の皆さんが城南地区に住んでいてよかったと思ってもらえるものにしていきたいです。



城南地区地域内交通運営委員会
委員長 茂木 瑞穂さん



● 便利な交通手段になるように
住民アンケートを基に、地区内の医療機関や商業施設、公共施設など44カ所を目的地としてあらかじめ指定しています。各目的地には原則として左下写真のような乗降場所を示す表示があります。この実験で出てきた課題をさらに運営委員会で検討し、より利便性の高いサービスを目指していきます。

自動車に依存しないまちづくりに向けて



本市では、コンパクト＋ネットワークによる持続可能な都市づくりを目指して、地域公共交通網形成計画を策定し、実施施策の検討を行っています。現在の交通システムを見直すとともに、新しい技術を積極的に活用することで、交通課題の解決を目指しています。自動運転技術の導入などによってバスドライバー不足を解消したり、ICTを活用して配車を最適化したりすることで、住民の移動手段の確保を目指します。また、それぞれの交通手段をうまく組み合わせることで、自家用車に頼らなくても安心して移動ができるまちづくりを目指します。